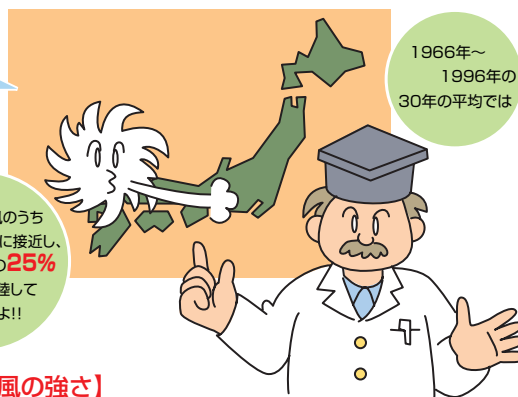


1 台風と集中豪雨

1. 台風の大きさと強さ

大型で強い台風とは？

台風の大きさは「風速15m/秒以上の半径」、強さは「最大風速」で表します。大きな台風ほど広い範囲に影響がおよび、強い台風では強風によって中心付近が大きな影響を受けます。



発生した台風のうち
40%が日本に接近し、
接近した台風の**25%**
が日本に上陸して
いるんだよ!!

【台風の大きさ】

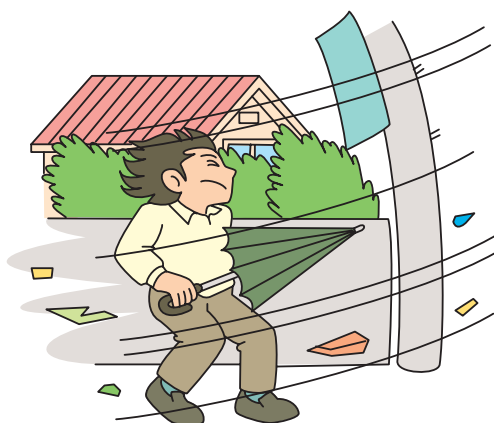
階級	風速15m/秒以上の半径
大型(大きい)	500km以上800km未満
超大型(非常に大きい)	800km以上

【台風の強さ】

階級	中心付近の最大風速
強い	秒速33m以上44m未満
非常に強い	秒速44m以上54m未満
猛烈な	秒速54m以上

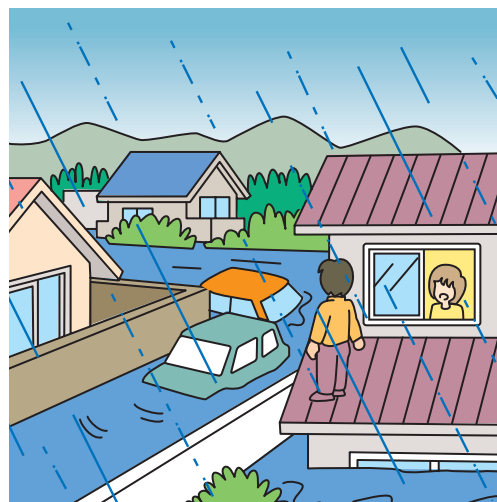
2. 風の強さと吹き方

平均風速(m/秒)	予報用語	人への影響	屋外・樹木の様子	建造物の被害
10~15	やや強い風	風に向かって歩きにくくなる。	樹木全体が揺れる。電線が鳴る。	取り付けの不完全な看板やトタン板が飛び始める。
15~20	強い風	風に向かって歩けない。転倒する人もでる。	小枝が折れる。	ビニールハウスが壊れ始める。
20~25	非常に強い風(暴風)	しっかりと身体を確保しないと転倒する。		鋼製シャッターが壊れ始める。風で飛ばされた物でガラスが割れる。
25~30	猛烈な風	立ってられない。屋外での行動は危険。	樹木が根こそぎ倒れ始める。	ブロック塀が壊れ、取り付けの不完全な屋外装材がはがれ、飛び始める。
30~				屋根が飛ばされたり、木造住宅の全壊が始まる。



3. 雨の強さと降り方

1時間雨量(ミリ)	予報用語	人の受けるイメージ	災害発生状況
10~20	やや強い雨	ザーザーと降る。	この程度の雨でも長く続くときは注意が必要。
20~30	強い雨	どしゃ降り	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模の崖崩れが始まる。
30~50	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る。	山崩れ・崖崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要。
50~80	非常に激しい雨	滝のように降る。(ゴーゴーと降り続く。)	マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。
80~	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。	雨による大規模な災害の発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要。

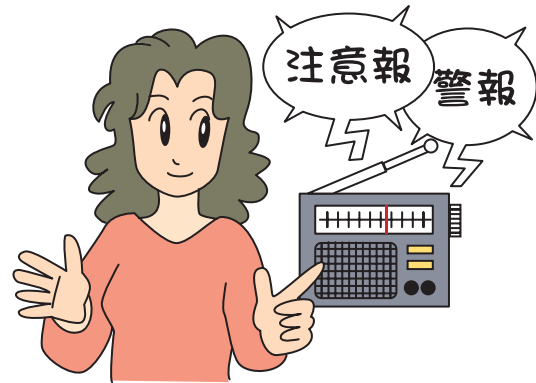


(注)「風の強さと吹き方」「雨の強さと降り方」は、平成12年8月気象庁作成の解説表より抜粋。被害状況等は、地形等の違いによって異なることがあります。

4. 注意報と警報

注意報は、災害がおこるおそれのあることを注意する予報。警報は、重大な災害がおこるおそれのあることを警告する予報。

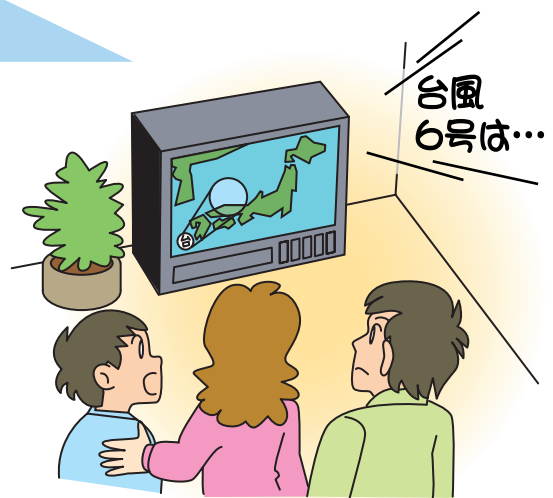
大雨や洪水などにはこれらの予報がありますが、基準は地域の実状によって定められており、全国同じというわけではありません。



5. ここがポイント事前の備え

家庭内では

- ◆ 気象情報を聞きます。
- ◆ 状況によって、遠出や外出は中止します。
- ◆ 避難場所について再確認します。
- ◆ 勤務先にいる家族などと連絡をとり非常時に備えます。
- ◆ 防災関係機関等の広報をよく聞いておきます。
- ◆ 家財道具・食料品・ふとん・衣服などの生活に欠かせないものを安全な場所へ移動します。

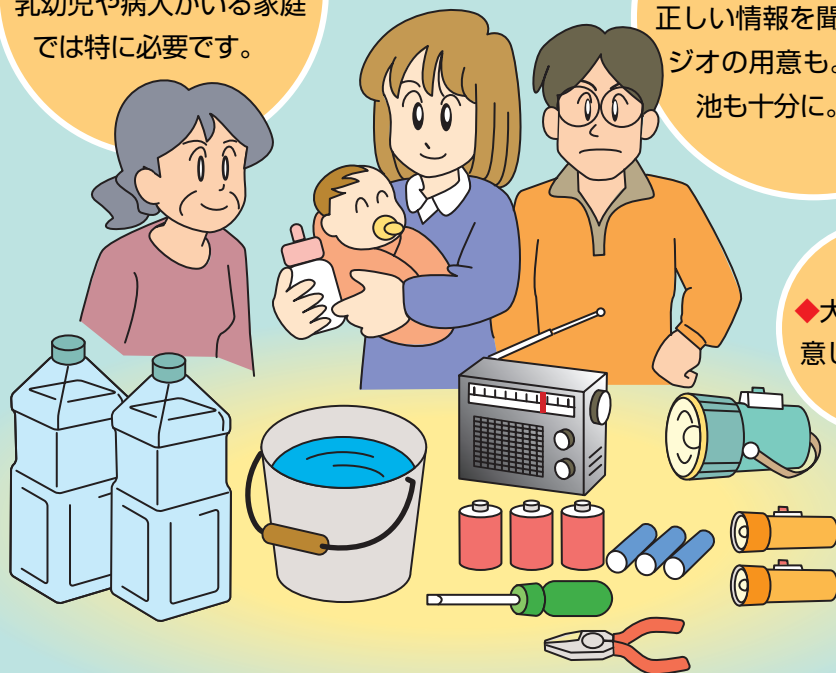


用意しておくのは

◆ 飲料水を用意して、断水や濁り水に備えます。乳幼児や病人がいる家庭では特に必要です。

◆ 懐中電灯を家族数に応じて準備します。また、正しい情報を聞くためにラジオの用意も。予備の電池も十分に。

◆ 大工道具も用意しましょう。



6. 洪水の中を避難するときは

お互いの体をロープやヒモでしっかり結んで、体力のある大人が両端を守ります。



先頭を歩く人は、竹か棒をつえにします。側溝の溝などの深みが分かりにくいので、つえを頼りに安全なところを選んで歩きましょう。



子どもが避難するときは、浮き輪を使うと深みにはまらずにすむので便利です。

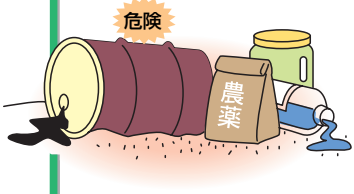
水の深さが50cm以上のときは、無理して避難するより、高いところで救助を待ったほうが安全です。また、長靴は中に水が入って歩きにくいので、運動靴で避難しましょう。

※子どもやお年寄りからは目を離さず、手を引くなどの手助けを忘れずに。

7. 風水害のあとしまつ

台風や豪雨の後は、危険がいっぱいです。地域で協力しあって安全な復旧活動しましょう。

危険物が漏れていないか点検しましょう。



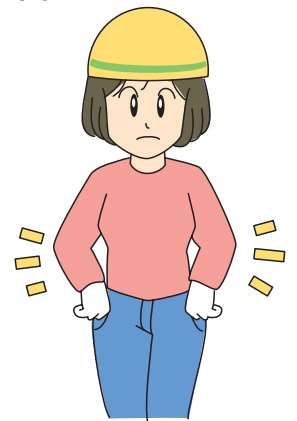
プロパンガスに異常はないか確認しましょう。



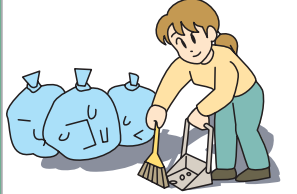
落下や倒壊の危険物があればただちに補強や除去を行いましょ。



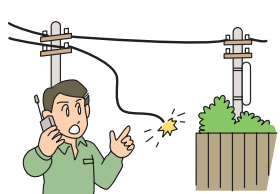
けがをしないよう、活動時には肌を露出しない服装にしましょう。ヘルメットも着用して落下物に備えましょう。



ごみや汚物の処理は早めに行いましょう。



断線を見つけたら電力会社へ通報しましょう。

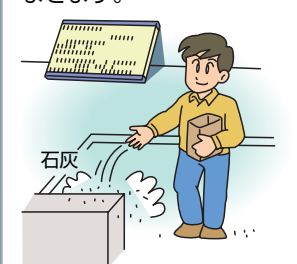


地域の清掃に協力しましょう。



■ 浸水のあとは…

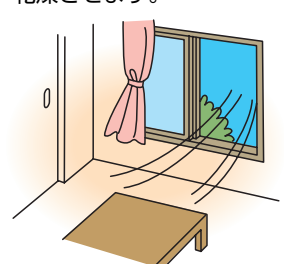
床下、庭、家周りに石灰をまきます。



家財道具やたたみなどは、日光消毒したり、クレゾール液でよく拭いたりします。



家の中は風通しをよくして乾燥させます。



衛生に注意。水道水は煮沸し、手を消毒します。



2 土砂災害に気をつけよう

危険箇所に指定された区域は台風や集中豪雨・地震によって大きな被害を受けることが考えられます。地域で十分気をつけましょう。

また、土砂災害は、雨がやんでからも発生することがありますので、油断しないようにしましょう。



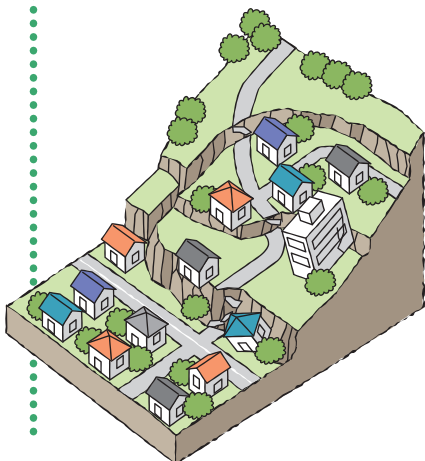
こんな土砂災害に注意しましょう

地すべり

粘土などのすべりやすい層を境に、その上の土がそっくり動き出す現象。

【前ぶれ】

- 地面にひび割れができる。
- 地面の一部が陥没したりする。
- 沢や井戸の水が濁る。
- がけや斜面から水が噴き出す。

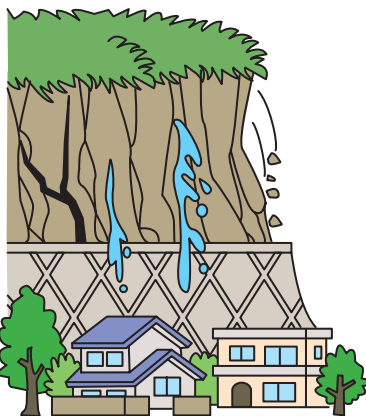


斜面崩壊

がけ崩れ、山崩れなど。突発的かつ急速におこることが多いのが特徴。

【前ぶれ】

- 小石がバラバラと落ちてくる。
- がけから水が湧いてくる。
- がけにひび割れができる。

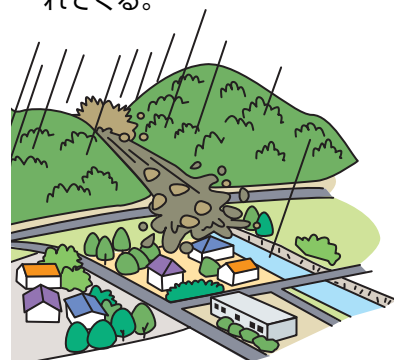


土石流

土石と水が一体となって流れ落ちる現象。昔から「山津波」とか「鉄砲水」といって恐れられています。

【前ぶれ】

- 山鳴りや木立の裂けるような音、ドンといった音がする。
- 雨が降り続けているのに、川の水が急に減り始める。
- 川の水が濁ったり、流木が流れてくる。



梅雨や台風の時期には十分警戒を

長雨や大雨により地面に大量の水がしみ込み、弱くなった斜面が崩れるため、がけ崩れのほとんどは、梅雨や台風の時期に発生します。

一般的に、1時間に20ミリ以上、又は降り始めから100ミリ以上の雨が続いたら、がけ崩れの危険性が高くなります。梅雨や台風の時期には十分な警戒が必要です。



注意したい場所は？

扇状地

山間部の集中豪雨からの土石流に要注意。早めに避難の準備を。



造成地

地盤がゆるみ崩れる危険が。水抜き穴から濁り水が出始めたら要注意。



山岳地帯

集中豪雨や地震による山崩れに用心したい。特に木の少ない山間部は土石流に対する警戒が必要。



河川敷

昔、河川敷だったところや河川の流域は、洪水についての対策を万全に。

